

仕事がかどるPDF活用術

曽根 武仁(百年堂)=ライター

第4回 PDFでプレゼンテーションを実施

プレゼンテーション資料を作成するソフトはマイクロソフトの「Power Point」が事実上の標準となっている。しかし、場合によっては、PDFの方が便利なこともある。例えば、PDFで用意したスライドは、PowerPointがインストールされていないパソコンでも、無償の閲覧ソフトAdobe Readerさえあれば表示できる。フォントを埋め込んでおけば、特殊なフォントを使っている場合でも、表示が変わってしまう心配がない。

PowerPointよりもWordやExcelを使い慣れているなら、それでスライドの素材を作ってもいい。最終的にPDF作成ソフトのAcrobatなどを使ってPDFとして書き出せば、プレゼンテーション資料の作成が可能になる。複数のソフトで作った書類を寄せ集めて1つのスライドにまとめてしまうことも可能だ。印刷する際にも、自動的にページを割り付けて小冊子にできたり、データのまま配布する場合に柔軟なセキュリティ設定ができたりと、PDFにはメリットがたくさんある。

Adobe ReaderやAcrobatではスライドを全画面で表示することができるし、ページを進める際に、徐々に画面が切り替わるフェードイン・フェードアウトなどの効果を付けることも可能だ。資料を作成するための細かい機能はないものの、スライドを表示する機能に関しては不足

ない。今回は、プレゼンテーションにPDFを利用するために必要なノウハウを一通り紹介しよう。

リッチなスライドを作成できる

PowerPointはプレゼンテーション資料作成の専用ソフトだけあって、画面の切り替え効果など、スライドを演出するアニメーション機能を豊富に備えている。種類はずっと少なくなるが、実はPDFにも同様の機能が用意されている。PowerPointファイルをPDF化すると、せっかく設定したアニメーション効果が失われてしまうと誤解している人も多いだろう。しかし実際には、完全な形で

はないものの、多くのアニメーション効果を、ほぼそのままの形でPDFへ持って行くことができる(図1)。

完全に再現できないというのは、複雑なアニメーションの場合だ。別のものに置き換わってしまうことがある。PDF化したら、必ず動作を確認しておこう。筆者が試した限りでは、フェードイン・フェードアウト、ディゾルブ(前の画面に後の画面がかぶって表示され、徐々に切り替わる効果)といった基本的な効果に関しては、問題なくPDF化できた。ただ、複数のページに、いろいろな効果を設定していくと、再現されにくくなる傾向があるようだ。

● PowerPointの効果やマルチメディアも再現可能

画面切り替え効果		フェードイン・フェードアウトなど、基本的な効果はPDFでも再現できる。複雑な動きは別の効果に置き換えられたりする
アニメーション	(一部対応)	
マルチメディア	○	動画や音声を張り付けている場合は、PDF上でも再現される。1つのPDFファイルとしてまとめられるので便利だ

● 初期設定ではアニメーションは無効

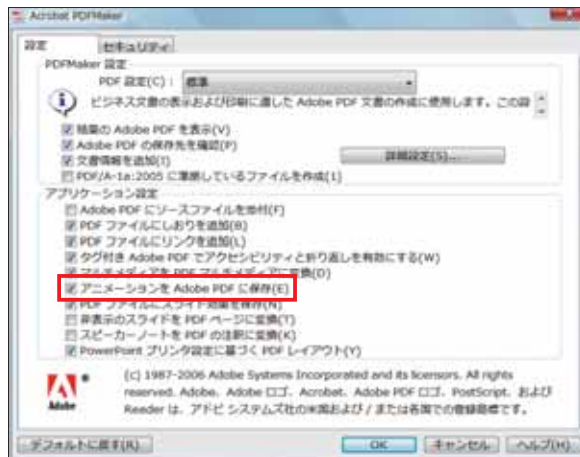


図1 PowerPointのファイルをPDF化した場合、画面切り替え効果やアニメーションも再現されるが、完全ではない。PDF化したら、一度確認しよう

図2 アニメーションをPDFで再現するには、「Acrobat」タブで環境設定を開き、「アニメーションをAdobe PDFに保存」にチェックを入れておく